

埼玉親善大使レポート

伊藤知歩

渡航先：メキシコ（グアダラハラ大学）

はじめに.

この度は、2024 年度埼玉親善大使に選んでいただきありがとうございました。本レポートでは、留学先のメキシコの様子、留学で得た経験、また埼玉親善大使としての活動を紹介します。

1. メキシコ、グアダラハラについて

私が留学していたグアダラハラは、メキシコ第二の都市といわれており、就労や進学のため多くの人々がメキシコ各地から集まっています。グアダラハラの中心部には、世界遺産であるグアダラハラ大聖堂があり、メキシコ国内外問わず多くの人々が訪れています。また、グアダラハラから車で2時間ほど行くと、テキーラ発祥の地であるテキーラ村があり、熟成されたテキーラのテイステイングを楽しむことができます。

グアダラハラは、メキシコの中でも大きい都市のため比較的公共交通機関も発達していると思います。現在グアダラハラには3つの電車の路線がありますが、2026年サッカーワールドカップの開催に向けて、空港から都市中心部までのアクセスが可能となる4つ目の路線を建設中ということです。

現地での生活

メキシコという国に対して、多くの人々が「治安が悪くて危ない」というイメージを持つのではないのでしょうか。実際は、たしかに日本と比べると治安の面では課題が残っています。しかし、そのようなマイナスな面だけでなく、メキシコには素晴らしいものがたくさんあります。まず食文化です。実はメキシコ料理は、和食と同様に無形文化遺産に登録されています。留学開始前は、メキシコ料理が口に合うか心配でしたが、10か月間現地でしか味わえない料理を楽しむことができました。私がメキシコの一番の魅力だと思う点は、人々がとても温かいことです。現地でよく聞いた「Mi casa es tu casa（私の家はあなたの家だよ）」という言葉は、まさにメキシコ人の誰でも温かく受け入れる国民性を表していると思います。

2. 留学で得た経験

私は大学で現地学生と一緒にスペイン語で授業を受けていたのですが、最初の頃は語学が不足しており、授業についていくことができませんでした。そんな中ある一つの授業で、メキシコの教育問題について扱いました。また、この授業は学生が10人もいない小人数の環境だったので、発言を求められる機会が多くありました。周囲の現地学生たちはメキシコで育ち実際に教育を受けてきたので、それぞれの経験、視点から問題や課題を見つけていました。一方で、私は留学生なのでそのような背景知識がなく、議論についていくのが難しく感じる場面が何度もありました。そんな中で私にできることは、日本の教育との違いや自身の経験を伝えることだと思い、授業の中で積極的に共有するようにしました。また、授業中や授業後には先生や周りの学生にたくさん質問をして、メキシコの教育制度や問題点について少しでも理解が深まるよう努めました。先生からは「あなたがいることで、日本の教育について知ることができて、クラス全体にとってプラスになっている」と言っていただき、その言葉に励まされました。困難な状況の中でも自分のことを行い、それが認めてもらえたのは、とても貴重な経験となりました。

3. 埼玉親善大使としての活動

私は埼玉県をPRするためにメキシコに草加せんべいと狭山茶を持っていき、現地で仲良くなった友人らにプレゼントしました。私の友人の多くは、最初その形からせんべいをクッキーのようなものだと思い、口にしてから「不思議な味がする！しょっぱい！」と驚いていました。そして後から私が、それは草加せんべいと言って、日本の伝統的なお菓子であり、埼玉県の名産だよと伝えると、草加せんべいならではの固さに驚きながらもみんなおいしい！と言って食べてくれました。また、各国の留学生が集まるイベントにも草加せんべいを持っていき、メキシコ人以外の人たちにも草加せんべいのおいしさを広めることができました。狭山茶は、ほとんどのメキシコ人にとって苦く飲みづらいものだったようです。メキシコにも緑茶はあるのですが、なんとそれらのほとんどは砂糖やミルク入りで、緑茶とは程遠いため、メキシコ人がイメージする緑茶として狭山茶を飲むと、その苦さにみんな驚いていました。

メキシコに埼玉県を知る人はほとんどいませんでしたが食を通じて、微力ながら、埼玉県を知るきっかけを作ることができたと思います。



グアダハラ大聖堂



テキーラ村



タコス



大学のキャンパス